



— 福知山線脱線事故から19年 —

「トッププライオリティ」という言葉だけの安全から脱却し、

安心して足元を固めることのできる職場をつくりだそう！

お客さまは「安全な鉄道輸送サービス」を求めている！しかし、JR東日本の安全は崩壊寸前だ！

新幹線・在来線問わず、部内要因で多くのお客さまにご迷惑をおかけする事象が後を絶ちません。これまで経営陣は「安全は経営のトッププライオリティ」と何度も発言していますが、その次に出てくるのは「変革」「融合と連携」といった“変化の強要”と、「稼ぐ」という“増収一辺倒の経営方針”です。株式会社ですから増収に対する施策をすべて否定するわけではありませんが、福知山線脱線事故発生当時、JR西日本大阪支社の支社長方針のトップに書かれていた言葉が「稼ぐ」であったことを忘れてはなりません。職場に目を向けると、ジョブローテーションによる専門性を否定した強制配置転換や、組合員を差別した職場運営による暗黒な職場風土に加え、様々なルールの上塗り現場社員の負担増と本質の埋没に繋がり、結果的に多くの事故・事象の発生、そして協力会社社員の死亡事故、お客さまの負傷事故という最悪の事態に繋がっています。

「想定外を想像」「安全を先取り」を実現させるために、まずは足元を踏み固めて安全の再構築を！

「グループ安全計画2028」が発表されました。聞こえの良い言葉が並ぶ一方で、事象は発生し続けています。今こそ、社員一人ひとりの力を伸ばす人材育成と、安全を構築するための土台を再構築しなければなりません。そのために、まずはお互いが何でも言い合える、風通しの良い健全な職場風土を取り戻すことが重要です。

私たち輸送サービス労組は、現場で働く仲間や地域の皆さまとともに、安全な輸送サービスを提供できる職場環境を実現するために、運動をつくりだしていきます！共に、声を上げ続けていきましょう！